

## 「第5回 おおさき社会貢献大賞」審査結果発表

大正デモクラシー運動のリーダー・吉野作造の精神に鑑み、より良い社会を目指す若者の活動を顕彰し広く紹介するもので、大崎市内で活躍する小・中・高校生・特別支援学校生・高専生の個人・団体による地域貢献活動、社会活動を対象とし取り組み事例を募集しました。2021年10月1日から2022年9月30日までに行われた取り組みで、「(1)若者の政治参加に関する活動 (2)社会福祉に関する活動 (3)地域文化、地域社会に貢献する活動 (4)国際貢献活動」が対象となる取り組みで、今回は9件の応募があり、下記の通り各賞を決定いたしました。

賞	活動内容および団体名
最優秀賞	<p>「7月豪雨災害ボランティア」 大崎市立鹿島台中学校1～3年生(11名)</p>
優秀賞	<p>大崎市立岩出山中学校については、全校全生徒で下記の社会貢献活動を行い、それぞれの活動が優れた取り組みであるため、取り組み全体に対して1つの賞を授与します。</p> <p>(1)「政宗公まつり」 大崎市立岩出山中学校1～3年生(191名)・教職員</p> <p>(2)「大崎市社会福祉協議会岩出山支所との連携事業 “あったかことばのギフトカード”」 大崎市立岩出山中学校1～3年生(216名)・教職員</p> <p>(3)「岩中ハンドシェイクプロジェクト 岩中SDGs つなぎ届ける ミャンマーへの想い」 大崎市立岩出山中学校1～3年生(191名)・教職員</p> <p>大崎市立鳴子中学校については、校内の複数の組織で下記の社会貢献活動を行い、それぞれの活動が優れた取り組みであるため、取り組み全体に対して1つの賞を授与します。</p> <p>(1)「高齢者への見守り活動」 大崎市立鳴子中学校 環境・福祉委員会(6名)</p> <p>(2)「パキスタン洪水被害への募金活動」 大崎市立鳴子中学校 生徒会執行部・環境・福祉委員会</p> <p>「岩出山小学校児童に対する読み聞かせ」 宮城県岩出山高等学校3年生(14名)</p>
奨励賞	<p>「誰にでも優しく、暮らしやすい大崎を願って～手作りシトラスリボン無償配布」 古川学園高等学校家庭部1～3年生(34名)</p> <p>「絵手紙でつながる心のキャッチボール」 大崎市立岩出山小学校3～6年生(250名)</p>

## 「第4回 吉野作造フェロースhip」採用企画発表

吉野作造は大正デモクラシーをリードした日本の民主主義社会の父ともいえる人物です。吉野作造が目指したのは、市民1人1人が自主的に社会に貢献し、互いに助け合い、支え合う社会でした。

NPO法人古川学人では、吉野作造の精神を継承し、社会の課題を見つけ、みずからのアイデアで解決しようとする若者の活動を応援するために地域貢献活動、社会活動の企画を募集し、2団体から応募、下記の通り採用企画を決定しました。

大崎市立古川西中学校 2学年および生徒会執行部

企画「古川西小中学区での 持続可能な 後輩に継承していく 地域貢献活動の充実」

応募資格 (A) 小・中・高校生・特別支援学校生・高専生

講評内容 ▶

結果：採用/奨励金5万円

これまで、古川西中学校1年生が総合的な学習の一環として、中学校区の地域の文化や歴史、観光資源などの特徴を学び地域との関わり合いを持ちながら、その魅力を内外に情報発信し、社会貢献活動に取り組んできました。

令和5年4月より古川西小中学校が開校することにより、昨年取り組んだ1年生は2年生となり、先輩が後輩へ伝える役割を担いながら活動を行っていきます。

地域にはそれぞれの歴史や文化があり、その魅力を学び、自分たちの故郷を様々な方へ伝え、育んでいく持続的な活動は社会への効果も大いに期待できることから企画を高く評価し採用とします。活動を行う上で、地域の方や各団体との連携をはかりながら、みんなが地域のために取り組み、良くする仕組みを確立されるよう期待します。

Robomatch プロジェクト

企画「Robomatch in おおさき」

応募資格 (B) 大学生、19～29歳

講評内容 ▶

結果：採用/奨励金10万円

大崎市を含めた地方の小中学生はプログラミングに触れる機会が都市部に比べ少ないことから、親しみながら学ぶプログラミング教室をこれまで開催してきました。

近年、プログラミングに対する機運の高まりやGIGAスクール構想の影響によって、プログラミングを学校や家庭で触れる機会が多くなり環境が変化してきていることから、子ども達が実際にロボットを組み立てたものをプログラミングで動かすという企画になっています。前回の事業報告書では、取り組んだことの内容を踏まえた反省と分析が適確に出来ており、また、時代の変化と大崎地域の学校や家庭の状況をくみ取りながら企画立案されていること、そして、ロボットやプログラミング教育の実践モデルを作るという目指すべき姿が明確に描かれている点を高く評価し採用とします。

